

銀河号に乗る児童たち



瀬戸の島々 児童満喫

岩国「海の日」で体験航海

岩国市の小学生が18日、クルーズ船で体験航海を楽しんだ。「海の日」にちなみ、市や港湾関係者が初めて企画。子どもたちは瀬戸内海の島々の景色などを満喫した。

瀬戸内海汽船の「銀河」(602ト)をチャーターし、児童と保護者たち計約400人が参加した。3回に分かれて岩国港を出発し、廿日市市宮島や大竹市阿多田島周辺をそれぞれ約1時間40分かけて巡った。操舵室では機器や、アルファベット、数字ごとに模様が違う国際信号旗の説明も受けた。

玖珂中央小6年中村恵都さん(11)は「とても海がきれい。国際信号旗がたくさんあるのにも驚いた」と話していた。

(大村隆)

H28.7.20(水) 中国新聞

中2で立てた志

飛鳥II初代船長 小田武氏が3中学で講演 世界に興味を



日本郵船の子会社・郵船クルーズが運航する国内最大の豪華客船「飛鳥II」5万トンの初代船長だった小田武氏が13日、周東中学校(太田尾雅博校長、全校生徒260人)を訪れ、「豪華客船で巡る世界の海と港口」と題して講演した。

中学2年生の時、「客船の船長になる」という将来の目標を立て、英語などを懸命に勉強して目標を達成した小田氏は、生徒を前に「目標を持つことは大切。努力もせずあきらめることは絶対にしてはいけない。明確な目標を立て、実現のために一生懸命に勉強を続けてもらいたい」とエール

を送った。講演会は岩国港、海の日の協賛会(会長・福田良彦市長)が18日の「海の日の記念事業として日本財団の「海と日本のプロジェクト」の助成で、「おちおもしろい」遊んで学ぶ岩国っ子みまつり」事業の一貫として行われた。

小田氏は同日午前10時に玖珂中学校で、14日午後は岩国中学校、15日午後は美和中学校で同様の講演会を行う。

周東中学校では午後1時半から全生徒が講堂に集まった。小田氏の自己紹介の後、「飛鳥II」船内やクルーズの様子を紹介する約15分のDVDを上映、生徒の質問に答えた。

自己紹介で小田氏は山口市出身であることを説明した。中学2年生の時、日本郵船の機関長を父に持つ友人宅に行くとき珍しい外国製チョコレートやビスケットがあり、「こんなに美味しい物を食べながら、世界中を回れるのか」と船長になることを決意したという。そんなに勉強をやるほう

ではなかったが、商船業界で実績のある大島商船を目標とした。先生に相談したところ、「トップクラスの成績でない合格しない」と言われ、目標に向かって突き進むため一生懸命に勉強したことを振り返った。

大島商船を卒業後、念願かなって日本郵船に入社。「素晴らしい職場だったが海の上では家族に会えないし、自由時間もなく、テレビも見られない特殊な世界。3回ぐらい挫折しそうになったが、家族の支えで頑張り、入社24年後の44歳で船長に昇進、退職まで14年間、客船の船長として7つの海を渡った」と語った。

小田氏は2003年から飛鳥船長、06年から飛鳥II船長、08年に船長を退いた。乗客リピーターの中には船長ファンも多く、クルーズを船長で遭う場合もある。

乗員出身は25か国。「飛鳥II」の乗員について質問され、「飛鳥II」の乗員が4800人程度おり、このうち日本人が3000人ぐらいで、残りはフィリピン、中国系シンガポール人、クロアチア、バルト三国、イギリス、アメリカ、オーストラリアなど25か国の人

が乗っている」と説明した。終身雇用ではなく、クルーズごとの契約制で、平均して4〜9か月。能力がないと判断されると契約が解除される厳しい世界で、各乗員はどのような業務をするのか、文書で明記されている。船長の役目は全ての乗船者の命を預かり、安全に船を運航させること。そして

「大変なことは」との問いには、「5万トン級の船も大自然の脅威にはかなわない。イギリスからアメリカへの航海の途中、台風しつぱり大変だった。マラッカ海峡を通るとき、東南アジア特有のスクロールに遭い、視界がなくなると、レーダーも利かなくなった。今はレーダーなどの計器の性能が向上し、優れた気象情報もあるので、安全性は向上している」とタイタニックも現在のような機器があれば、悲惨な事故は起きなかつたろう」とした。

さらに「小学生時代は航空機パイロットになりたかった。そして中学2年で船長になりたいと将来の目標を決め、その夢が実現できた。皆さんは勉強やクラブ活動を一生懸命頑張っていると思うが、これから大人の仲間入りをする時期。自分の周囲がどう動いているのか、ニュースや新聞を見て世界、日本の動きに興味を持ってほしい」と語ると、自分の立ち位置がわかって来る。そして目標を立てる

こと。目標を立て、一生懸命に勉強することで成績はどんどんよくなる。将来、いろいろな仕事に就くと思うが、目標を持って努力してほしい。簡単にあきらめ逃げることは絶対にしないで」と求めた。

講演を熱心に聞いた全校生徒が小田氏による講演を熱心に聞いた。講演を熱心に聞いた全校生徒が小田氏による講演を熱心に聞いた。

講演を熱心に聞いた全校生徒が小田氏による講演を熱心に聞いた。



H28.7.15(金)
日刊いわくに

岩柳

飛鳥元船長
講演会

飛鳥II元船長
海の魅力語る

岩国西中で講演

山あいの子どもたち
に海の魅力を伝えよう
と岩国市角の岩国西中
で14日、日本最大級の



客船「飛鳥II」の元船
長小田武さん(70)「山
口市」が講演した「写
真。1〜3年生59人に、
洋上の体験や仕事のや
りがいを伝えた。
小田さんは55歳から
5年間、「飛鳥」「飛

鳥II」の船長として世
界の海を巡った経験を
披露。メキシコ近海の
ウミガメの群れや南極
のアザラシなど、航海
中に見た生物の美しさ
などを伝えた。
生徒から「船乗りにな
ってよかったこと
は」との質問に、「乗
客や乗組員、寄港先で
の出会いが財産になっ
た」と振り返った。1
年並平拓真さん(12)は
「広い海を巡る仕事は
かっこよくて憧れる」
と感心していた。

講演会は、子ども

たちに海への関心を
高めてもらおうと、
市と海事業者たちで
た。「日」協賛会」が企画し
つくる「岩国港『海

H28 7.15 (金)

中国新聞